

## SPring-8 運転・利用状況

公益財団法人高輝度光科学研究センター  
研究調整部

## ◎平成27年6～7月の運転・利用実績

SPring-8は6月8日から7月4日までセベラルバンチ運転で第3サイクルの運転を行い、7月6日から7月30日(\*1)までセベラルバンチ運転で第4サイクルの運転を実施した。第3サイクルでは安全インターロック動作によるビームアポート等があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間(ユーザータイム)内での故障等による停止時間(down time)は、第3サイクルは約0.3%であった。

放射光利用実績(いずれも暫定値)については、実施された共同利用研究の実験数は、第3サイクルは合計297件、利用研究者は1,310名で、専用施設利用研究の実験数は合計215件、利用研究者は849名であった。第4サイクルは合計195件、利用研究者は938名で、専用施設利用研究の実験数は合計133件、利用研究者は553名であった。

## 1. 装置運転関係

## (1) 運転期間

第3サイクル (6/8(月)～7/4(土))

第4サイクル (7/6(月)～7/30(木))

## (2) 運転時間の内訳

第3サイクル

運転時間総計 約625時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約49時間

②放射光利用運転時間 約573時間

③故障等による down time 約2時間

④フィリング変更時間 約1時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③+④)に対する down time の割合(\*2) 約0.3%

第4サイクル

運転時間総計 約583時間

①装置の調整およびマシンスタディ等 約199時間

②放射光利用運転時間 約383時間

③故障等による down time 0時間

④フィリング変更時間 約1時間

総放射光利用運転時間(ユーザータイム=②+③+④)に対する down time の割合(\*2) 0%

## (3) 運転スペック等

第3サイクル (セベラルバンチ運転)

・11/29-filling + 1 bunch

・203 bunches

・2/29-filling + 26 bunches

・11/29-filling + 1 bunch

第4サイクル (セベラルバンチ運転)

・1/7-filling + 5 bunches

・11 bunch train × 29

・入射は電流値優先モード(2～3分毎(マルチバンチ時)もしくは20～40秒毎(セベラルバンチ時))の Top-Up モードで実施。

・蓄積電流 8 GeV、～100 mA

## (4) 主な down time の原因

・安全インターロック動作によるアポート

・SR RF Ast サーキュレータアークによるアポート

## 2. 利用関係

## (1) 放射光利用実験期間

第3サイクル (6/9(火)～7/4(土))

第4サイクル (7/9(木)～7/25(土))

## (2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン

共用ビームライン 26本

専用ビームライン 19本

理研ビームライン 9本

加速器診断ビームライン 2本

第3サイクル（暫定値）

|             |        |
|-------------|--------|
| 共同利用研究実験数   | 297件   |
| 共同利用研究者数    | 1,310名 |
| 専用施設利用研究実験数 | 215件   |
| 専用施設利用研究者数  | 849名   |

第4サイクル（暫定値）

|             |      |
|-------------|------|
| 共同利用研究実験数   | 195件 |
| 共同利用研究者数    | 938名 |
| 専用施設利用研究実験数 | 133件 |
| 専用施設利用研究者数  | 553名 |

◎平成27年8～9月の運転・利用実績

SPring-8は8月1日から9月10日まで夏期点検調整期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業を行った。

◎今後の予定

SPring-8は9月11日から10月17日までセベラルバンチ運転で第5サイクルの運転を行い、10月18日の停止をはさみ、10月19日から11月14日までセベラルバンチ運転で第6サイクルの運転を実施する。第5～6サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

- (\*1) ビーム調整時間中の作業等を理化学研究所と共に再検討し、運転時間を短縮。
- (\*2) down time の割合に④フィリング変更時間は含まない。